

## 1. 研究計画

本テーマは、プロジェクト全体の中で、開発の観点から社会的要素に焦点をあてた研究を担当する。特に、ポスト・ミレニアム開発目標（MDGs）の観点から持続可能な開発のための目標・指標の検討をする。開発分野のうち、特に教育、保健、健康、水、衛生等の MDGs に含まれる諸分野、あるいは、エネルギーのような新たに重要とされる分野の観点から、MDGs 達成程度及びその要因を明らかにするとともに、MDGs の教訓を踏まえて、2015 年以降の開発目標に必要となる問題領域を明らかにするとともに、新たな目標及び指標の可能性について検討する。本テーマは、(1) 人間の成長に関する領域（教育分野）、(2) 人間の生存に関する領域（保健・健康・衛生に関する分野）、(3) 社会の成長に関する領域（経済開発分野）、(4) 社会の存続に関する領域（環境・資源に関する諸分野 [水、エネルギー等]）という 4 つのサブテーマにおける、成長及び開発実現のための目標や指標についての研究を実施する。いずれのサブテーマにおいても、ミレニアム開発目標の延長という視点から、ポスト 2015 年開発目標と指標の検討を行う。成果は、ワーキンググループ等でのプロジェクト全体の成果構築へ向けた知見を提供するとともに、他テーマとの研究成果との比較・融合の可能性に関する分析も行う。

## 2. 研究の進捗状況

### (1) 教育分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示

MDGs 中にある教育目標の進捗状況を、統計データの分析と先行研究をレビューに基づき検証した。また、カンボジア、ケニア、インドで事例研究のための準備作業を行った。更に、持続発展教育（ESD）に関する理論的・実践的研究を行った。研究結果はワーキング・ペーパーとしてまとめ、出版予定である。さらに、具体的な開発目標として、「水リテラシー向上」の重要性を指摘したポリシー・ブリーフを発表した。

### (2) 保健・健康・衛生に関する分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示

現行保健関連 MDGs の達成状況を踏まえた上で、それが達成し得た効果を直接的効果と間接的効果に分けて検証した。現行保健関連 MDGs 中に包含されなかった健康課題について検討を加えた。これらの研究結果は、具体的な指標を提示するためのポリシー・ブリーフとしてまとめている。さらに、カンボジア、ハイチ、岩手県陸前高田市で現地調査を行った。

### (3) 経済開発分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示

MDGs 後の新たな目標と指標を提示するため、その主要ターゲットについて進捗状況を整理した。各国で進捗状況がどの程度異なるかを明確にし、その相違要因について候補を絞って計量分析を行い、決定要因を明らかにした。

### (4) 水、エネルギー等社会の存続に関する領域におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示

水、エネルギー等社会の存続に関する領域におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示に向けて、この分野における既存の提案についてレビューを行った。それに基づいて、これまでに注目されてきた側面と、今後必要とされる側面に関する検討を行った。さらに、持続可能な開発におけるレジリエンスに関する理論的・実証的な検討に向けた基礎調査を行った。

## 3. 環境政策への貢献（研究者による記載）

グローバリゼーションが進展する中、貧困・社会的排除問題と地球環境問題は同時に取り組むべき地球規模の課題となっており、「開発」の観点による研究を通して諸領域の関連性を明らかにすることは、環境政策を策定していくうえでも重要である。そのため、本研究では、教育、経

済、健康・保健、資源・エネルギー、などの多様な観点から研究成果を積み上げ、環境政策へのフィードバックを行うことを目指している。

また、こうした地球レベルの課題の解決を担う人材の育成も緊急の課題であり、グローバルな市民性（Global Citizenship）を備えた人材育成のためのESDアプローチをさらに推進し、認知的能力と非認知的能力の両面をバランスよく高めるような教育のあり方を各国の文脈にもとづきながら検討していくことが不可欠である。

本研究では、グローバルな市民性のなかでも、「水問題」と「教育」の関係性に焦点をあてて、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）のあり方について検証を行った。

世界中の人々が安全な水利用をするためには、水に関する適切な知識の習得、自然災害への対応方法についての学習機会の充実、行政関係者の水に関する課題への認識向上、具体的な施策を講じるためのシステム作りが不可欠である。こうした観点から研究を積み重ね、その成果を「水と教育の相互関連性」に関するポリシー・ブリーフにまとめた。2014年5月には、国連本部で、国連職員、国連加盟国の政府代表者達、NGO等関連機関の専門家たちに対して「水に関するリテラシーをSDGs目標に取り入れるべき」との提言を行い、高く評価された。

さらに、本研究では、現在までの保健関連MDGsの進捗状況の検証を行い、2000年当時と比較して、2015年の社会がより構造的で慢性的な保健課題に直面している可能性が大きくなっていくことを明らかにした。そして、健康と食糧の問題、及びそれらを支える環境問題を相互に密接に関連づけて検討し、国際社会の注意を促すことの重要性を明らかにし、健康と食糧に関する今日的課題の一つである「肥満」の問題に焦点をあて、ポリシー・ブリーフとして提言をまとめている。

また、本研究では、経済分野の観点から、MDGs目標の進捗に関し不平等が改善されていないことを明らかにし、持続可能な開発を実現するためには多様な社会・経済格差の解消が欠かせないことを示した。加えて、エネルギー・資源の制約に関する観点からも、社会経済的な問題と関連づけつつ、研究を進めている。これらの経済分野並びに環境分野における研究成果について、ワーキング・ペーパーやポリシー・ブリーフをまとめていく予定である。

以上のように、本研究は、直接環境に関わる分野のみならず、経済や社会開発、健康といった開発に関する諸分野と環境課題の関連性を提示することを通して、環境政策に貢献するものである。さらに、環境課題を含め諸領域にまたがる課題に関するグローバルな視野をもつ人材育成のためのアプローチを教育分野から提示することにより、環境政策の実施推進にも寄与するものである。

#### 4. 委員の指摘及び提言概要

具体的な目標の提案につながる研究としてのまとまりがあり、全体としてプロジェクトへの貢献が認められる。「分散」に着目するなど、従来の環境研究になかった新たな視点を提供することが期待できる。肥満予防や格差是正など重要な視点を取り入れている点は、リテラシーの観点とともに科学的にも政策的にも意義が高い。持続可能な開発目標に人間の基本的諸要件（水、保健、健康、衛生など）を組み込んだ研究は興味深い。

#### 5. 評点

総合評点： A